

平成28年度 年度末アンケートの集計結果まとめ

島根県教育センター

[]内はH27年度の数値

- 昨年度に続き、ほとんどの受講者が研修内容を活用（95.6%[97.0]）し、校内で伝達（93.9%[93.2]）している。
- 研修内容の活用は、研修内容によるところが大きいと思われるが、「校内研究や個人研究の参考にした」（29.4%[36.6]）、「学校全体の取組や方針に取り入れた」（25.9%[27.2]）、「ワークシート・教材に利用した」（21.2%[17.4]）、「授業展開や学習評価を工夫した」（20.7%[21.1]）、「全体計画・年間指導計画等を見直した」（21.3%[3.9]）の割合が比較的多い。この中で、「全体計画・年間指導計画等を見直した」の割合は昨年度に比べ大幅に増えた。他は昨年度と同じ傾向であった。
- 昨年度は研修内容を活用されていない研修もあったが、全ての研修で活用されていた（9割以上）。校種別では高等学校が「活用していない」割合が多く、昨年度に比べ増加した（13.6%[9.2]）。
- 研修内容を活用していない理由は、「時間的な余裕がない」割合が全ての校種において多かった（38.1%[37.5]）。続いて「組織全体で行うのが難しい」の割合が多いが、昨年度に比べて大幅に増加した（19.0%[0]）。
- 校内への伝達は、高等学校（77.8%[76.5]）に比べ、小・中・特別支援学校でよく行われている（95.8%[96.7]、95.1%[90.2]、90.3%[80.8]）。特に特別支援学校で割合が増加した。
- 研修内容の校内への伝達方法は、全校種で「資料を回覧した」割合が多い（63.7%[55.0]）。小学校では「職員朝礼・職員会議等で説明する」割合も比較的多い（31.6%[32.5]）。
- 研修内容を伝達した後、校内の他者が活用する割合は全体で44.5%[26.3]と大幅に増加した。ただし、他者の活用が「わからない」割合も多い（37.9%[14.4]）。特に高等学校・特別支援学校で、他者の活用の割合が大幅に増えた（31.7%[8.0]、28.6[0]％）。
- 会場別では、校内の伝達の割合について全県会場がやや低く（85.4%[82.1]）、昨年度と同じ傾向である。市郡会場が、活用・校内の伝達・他者の活用の全てにおいて割合が高かった（97.1%[96.9]、96.7%[97.9]、50.6%[26.1]）。
- 高等学校と特別支援学校の回答率は増加した（高62.3%[48.8]、特57.4%[44.1]）が、十分な割合とは言えない。引き続き校外研修と校内人材育成との一体的機能強化を働きかける必要がある。